

東濃社会教育だより

- 教・産・地域連携推進事業 -



恵那県事務所
振興防災課 振興係
社会教育担当: 岩島 哲也
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL: 0573-26-1111 内線 208

土曜日の教育支援活動

「わがまち 多治見大好き講座」

～今回のピックアップ事業～

◇多治見市では、『土曜日の教育支援活動』実施3年目となります。市内の全小中学生を対象として、年9回の講座が開催されています。そのねらいとして、大きく以下の2点が挙げられています。

- ①子どもたちの土曜日の生活の充実を図る。
- ②郷土の伝統や文化、産業を多治見にゆかりのある様々な分野の方々から体験を通して学ぶことで、多治見に愛着をもち、多治見を誇りに思う心を育む。

多治見市の体験活動は、地域団体、教員OBだけでなく、企業も指導者等の立場で携わってみえます。

『土曜日の教育活動』を行っている県下の市町村の中で、企業と連携して取り組んでいるのは、多治見市のみです。土曜日の限られた時間の中で行われる活動について、子どもたちに豊かな体験を提供するために様々な立場の方と連携・協働してみえる多治見市教育研究所の皆様が頭が下がります。

実際、7月15日の『タイル博士になろう 2017』を見学させていただきましたが、多治見観光ボランティアガイド4名、土曜学習サポーター2名、中学生ボランティア11名、教育委員会職員と多くの方がスタッフとなり、運営されていました。78名の参加者が、タイル工場の見学、モザイクタイルミュージアムの見学、タイルの貼り子体験と3か所をローテーションしながら、興味深そうに取り組んでいる姿がありました。『ふるさと多治見』について知り、体験を通して学ぶという機会を計画的に実施していくことは、極めて意義深いことであると実感しました。

今回は、11月25日に実施された『多治見ふるさとしごと塾』について紹介します。

- 1 ねらい 多治見の様々な職種の第一線で活躍しておられる方々から、自身の仕事や郷土への思いなどについて聞いたり、実際に体験したりすることを通して、ふるさと多治見への愛着を深め、夢と希望をもって生きる心を育む。
- 2 主催者 多治見ロータリークラブ 東濃信用金庫 多治見市教育委員会
- 3 参加者 小・中学生 177名 (受講生159名 中学生ボランティア18名)
- 4 会場 とうしん学びの丘エール
- 5 体験授業内容 講師：22人

これだけ多くの職種の方を一堂に会して、開催しているところに主催者側の強い願いが伝わります。参加者の3分の2が第2希望までの中で体験できたそうです。

- ①陶芸家「手びねりの体験」
- ②警備会社「ガードマン体験をしよう」
- ③エネルギー「太陽光の話」
- ④義肢製造業「義足で歩行してみよう」
- ⑤水道「水道管をつなぐ」
- ⑥ケーキ職人「ケーキの歴史と調理道具」
- ⑦陶器製造「マグカップを作ろう」
- ⑧歯科医師「歯医者さん」
- ⑨機械鉄工「鉄で物を作るには人」
- ⑩弁護士「裁判所でお話をするとは」
- ⑪新聞販売「新聞配達のお話」
- ⑫タイル製造「タイルを作るには」
- ⑬建築士「地震に強い建物を作ろう」
- ⑭日本料理「うなぎ屋さん」
- ⑮生命・損害保険会社「生命・損保保険のお話」
- ⑯銀行「商業銀行」
- ⑰電信電話「災害伝言ダイヤル」
- ⑱電力会社「電気を作る仕組みを知ろう」
- ⑲信用金庫「お札（銀行券）の話」

6 日程 8:35～ 8:50 受付 8:55～9:10 はじめの会
9:25～10:10 しごと塾

7 「しごと塾を終えて」…それぞれの立場からの思い

～受講者から～

☆私は日本りょうりをたいけんして、しょうらいのゆめがびょうしから、うなぎやさんになりたくなりました。なので、うなぎについて、たくさん知らなきゃと思いました。(小2)

☆ぼくが土曜学習でびっくりしたことはお札が光ることや〇の中から顔がうすくうつる(すかし)ということです。1億円をもちあげるのもはじめてだったし、お札をまねして作れないこともわかりました。(小2)

☆べんごしに一步近づけた気がしました。「結論」→「理由」→「事実」のじゅんばんのことや民事と刑事のことがわかったからです。考える時なやんでいたら、先生が考え方や先生の考えを教えてくださいました。うれしかったです。(小4)

～中学生ボランティアから～

☆土曜学習「わがまち多治見大好き講座」のボランティアをさせていただき、良い体験をすることができました。受付から各コーナーのサポート、参加者の誘導など。様々な仕事をまかせていただき、やりがいのある仕事に責任感を感じました。また、小学1年生から中学2年生という幅広い年代の子が参加していたため、少しまとめるのに苦労しましたが、子どもらしい行動や意見を見たり聞いたりして、楽しい時間を過ごすことができました。(中3)

☆いろいろな仕事があることを知り、ボランティアをやった者としても、将来のことを考えさせられました。日常生活の中でも今回の経験が生かせると思います。(中1)

～保護者から～

☆この度は、本当に貴重な経験をさせていただき、嬉しく思います。「自分の街を知る」きっかけにもなりますし、地場産業を守る重要性を学ぶことができました。

☆教えて頂いたことを模型を使いながら嬉しそうに話してくれたので、講座が楽しかったことが伝わりました。

☆私では到底教えてあげられない事を、仕事のプロから学び、「新しい発見ができた！」というような気持ちでいたと思います。すばらしい講座だと思えます。多治見市内の人生の先輩から子どもへ伝えていくという愛情を感じる講座だと思えます。

～講師の方から～

☆きらきらした目、何でもやってみたいという旺盛な好奇心、やっぱり子どもは宝物だなあと思いました。

☆太陽光発電の話をしました。話の内容より模型に太陽の光を当てると勢いよく回る羽根とか照明の明るさに関心があり、未知に対する旺盛な探究心に、子どもたちに将来への期待が高まりました。

☆子どもたちのひたむきな姿勢と明るさに感動しました。これを契機に、いろいろな仕事に興味をもってもらい、多治見から世界で活躍する人材が出ればと思いました。



【陶磁器製造体験】



【タイル製造体験】



【義肢体験】

多治見市教育研究所 宮島 敦子先生から ◇講座の内容、100人を超える子どもたちの体験先を開発していくのはとても難しいことです。しかし、参加した子どもたち・ボランティアの中学生、保護者の方からの感想を目にすると、多治見に愛着、誇りをもつ子どもの育成を更に目指していきたいという思いが強くなります。

地域づくり人材養成講座 活動報告会

(中津川市)

岐阜県では、平成24年3月策定の「岐阜県生涯学習振興指針～『地域づくり型生涯学習』による地域の『絆』とコミュニティの再構築～」に基づき、「地域づくり型生涯学習」の推進を支える人材を養成するため、以下の2事業を実施しています。(昨年度まで岐阜県環境生活部環境生活政策課の事業であったが、今年度から環境生活部県民生活課の事業へ移管。)

◇地域づくり人材講座（活動実践編）

- ・地域住民が自ら地域課題を見つけ、課題解決に向けた活動計画の立案やそれに基づき実践活動を行う講座です。
- ・今年度、県内では各務原市で開催されています。

◇地域づくり人材講座（計画立案編）

- ・地域課題の発見から課題解決に向けた活動計画の立案までを短期間で学ぶ講座です。
- ・今年度は県内で中津川市、美濃加茂市で開催されています。

※環境生活政策課主管の短期型人材養成講座「学びによる地域づくり活動デビュー講座」であった時、東濃地区内では、平成26年度：瑞浪市、平成27年度：瑞浪市・中津川市で開催されました。

中津川市での開催内容

- ① 参加者 中津川市在住者 まちづくり団体の方
- ② 開催時期 平成29年6月～12月
- ③ 講座回数 **3回**+自主ワーク+報告会
- ④ 講座内容

◇ 第1回ワークショップ（6月18日【日】10:00～12:00）場所：中津川市坂下公民館

受講者：24名 講師：岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 氏

◎「地域課題を発見しよう」をテーマに、KJ法を用いて課題を抽出し、今後どういう課題に取り組みたいかの検討。

～各グループの検討案～

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| Aグループ → 世代間交流 情報発信 | Bグループ → 若者・親子向けの居場所づくり
地域のPR |
| Cグループ → 男性向け活動 世代間交流 | Dグループ → 地域活動（世代間交流） |
| Eグループ → 全世代参加のイベント（文化伝承、地域活性化） | 人が集まる川 |

☆次回、活動したいテーマごとのグループ再編成

◇ 第2回ワークショップ（7月9日【日】10:00～12:00）場所：中津川市坂下公民館

受講者：18名 講師：岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 氏

◎活動発表：「中津川市坂下地区郷土文化財保存会の活動 ～上野・坂下ふるさと歴史資料館『柁蔵』開館に至るまで」

発表者：中津川市坂下地区郷土文化財保存会 会長 早川 英雄 氏

◎ワークショップ：「男性向けの取組」「川の活用」「情報発信」「世代間交流」の4つのテーマに分かれ、どんな地域活動をするのかの計画立案

☆次回も引き続き計画立案

大きくとらえる

◇ 第3回ワークショップ（7月23日【日】10:00~12:00）場所：中津川市坂下公民館

受講者：18名 講師：岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 氏

◎前回に引き続き、4つのテーマに分かれて計画立案

「男性向けの取組」 ◎アンケート調査を実施後、ニーズに合わせた講座・イベントを実施したい。
▲講座を開催しても圧倒的に女性が多い。男性の現役世代の参加が殆どない。
☆ターゲットとする30代~50代の男性にアンケートを実施し、ニーズを把握後、方向性を決定する。→単発の講座ではなく、長く継続できる講座にしたい。

「川の活用」 ◎川を大切に、川に親しむイベントを実施したい。
▲規制等があり、川で自由に遊ぶことができない。
☆川に親しむ体験の実施。→子どもの頃から親しんでいれば、大人になっても親しみをもち続ける。川の整備にもつながる。

「情報発信」 ◎既存のものを活かしつつ、よりわかりやすいものにしたい。
・既存のウォーキングマップに歴史等ジャンル別の情報を追加。HPに地区別の入り口を作り、その中をジャンル別に分ける。等
▲チラシ・パンフ等の情報発信はしているが、伝わってこない。
☆まずは資料集めを行い、各事項の作業に入る。

「世代間交流」 ◎坂下地域の伝統文化、伝統料理、昔の遊び等の講座を開催し、三世代交流をしたい。
▲居場所や活動スペース等の場所がない。在住する小さな子どもの母親の多くは、市外出身者。→地域のことをあまり知らないため、子どもたちへも教えられない。等
☆坂下地域のことを知ることができる講座の開催。→活動の成果は坂下文化祭で展示発表したい。



◇（12月10日【日】10:00~12:00）場所：中津川市坂下公民館

これまでの講座3回と自主ワークを受けて、それぞれのグループからの発表が行われました。どのグループも課題克服のための具体策を提言されていました。その後、質疑応答、益川先生からの講評・助言を頂いた上で、改めてグループワークで各提案について再構築する時間が設けられました。

「男性向けの取組」（2名）
◇「男の居場所」アンケート調査用紙に基づく提案
→地区回覧板や公民館来館者を通じてアンケート実施予定

「川の活用」（3名）
◇講座「川が君を待っている～楽しい魚釣り教室」の企画案（募集ちらし）提案
→川上川で来年度実施予定

「情報発信」（3名）
◇情報環境の整備に係る発表（坂下総合体育館・坂下総合事務所・坂下公民館）、きりら坂下の景観整備構想の発表、名所マップの作成等
→各箇所において実施予定

「世代間交流」（7名）
◇活動計画案（世代間交流概念図）の発表（交流スペース作り、昔の遊びを伝える、郷土料理を伝える、小・中・高校交流 等）
→坂下公民館を拠点として実施予定

益川先生からの講評・助言（各グループへのアドバイス後、）具体性のあるものを楽しんでいきたいという思いをもった取組がとても大切。与えられた「コップ半分の水」に対して、満足するのか、納得するのか、怒るのか、…、捉え方は様々。一杯にしていくのはこれからである。

【参加者の感想】☆この先、いろんな形で細やかでも実行していくようにしたい。 ☆私たち高校生も地域活性化に貢献できるような活動を高校内でも行っていけるようにしたいと思いました。坂下にいろんな世代の人が集まれるようにしたいです。

◎課題を明らかにするだけでなく、解決に向けて具体的方策を考え、実行に移していくのは、地域の方の協働が必要です。その目前まで迫ったこの講座は今後がとても楽しみです。中津川市生涯学習スポーツ課の皆様、本当にお疲れ様でした。